様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年５月３０日現在

機関番号：２４５０１
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：２００７～２０１０
課題番号：１９５２０６８４
研究課題名（和文）　中国地誌の回顧とフィールド調査に基づく記述の実践による地誌学再考
研究課題名（英文）　Reconsideration for regional geography based on reviews of Chinese chorography and practice of writing on field survey
研究代表者
小島　泰雄（KOJIMA　Yasuo）
公立大学法人神戸市外国語大学・外国学研究所・教授
研究者番号：８０２３４７６４

研究成果の概要（和文）：
本研究課題は、中国地誌が何を書いてきたのかを検討したうえで、中国地誌を「書く」という実践を通して、地誌の可能性を再考することを目的としている。研究の方法論的な特徴は、フィールド調査に立脚した地誌の実践という点にある。江蘇・香港・吉林・福建・河南・湖南・四川・雲南・貴州で行ったフィールド調査に基づいて地誌を書き、論文や著作として公表している。また日本の中国地誌の近代における変遷の特徴が、時代の要請と深く結びついていることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：
This study had aimed to analyse and write Chinese chorography, and to reconsider the potential of regional geography. Practice of regional geography depended on field survey is a feature of this study. Field survey had done in Jiangsu, Hongkong, Jilin, Fujian, Henan, Hunan, Sichuan, Yunnan and Guizhou, and chorography has been published in papers and books. This study also elucidated that modern change of Chinese chorography in Japan deeply connected with demands of the times.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００７年度	900,000	270,000	1,170,000
２００８年度	900,000	270,000	1,170,000
２００９年度	800,000	240,000	1,040,000
２０１０年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総　計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文地理学
科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学
キーワード：地誌、中国、フィールド調査、近代、

１．研究開始当初の背景
(1)地域研究が学際的に展開される中、個々の地理学研究者による寄与だけでなく、地理学には専門分野としての役割が問われている。また、1980 年代から英語圏地理学で展開されてきた New Regional Geography とされ

る研究群においては、グローバル化する世界における比較的狭域の地域像の再構築が目指されたが、地域の認識論的課題の提示にとどまっており、地誌を書くことはほぼ等閑に付されてきた。

(2)近代地理学は環境論の下で地誌学を洗練した歴史を有するが、前世紀半ば以降になると、論理実証主義的な方法論を重視することによって研究の発展が生み出されてきた。その中で、人文主義や急進主義、さらにポスト構造主義に立脚した研究が批判的視点を提示してきたが、一方で、地誌という表現領域は学史的伝統として継続されるか、あるいは芸術に祭り上げられ、具体的な地誌を書く作業は地理学研究者の「副業」の域を超えない場合が少なくない状況となった。

２．研究の目的

(1)本研究課題は、中国地誌が何を書いてきたのかを検討したうえで、中国地誌を「書く」という実践を通して、地誌の可能性を再考することを目的としている。

(2)研究代表者は中国農村を主たるフィールドとして、地理学と中国研究の間を往復する研究活動を行ってきた。そこでは地理学の有効性を中国研究に提示し、同時に中国というフィールドからの問いを地理学に投げ返すよう努めてきた。その際、地誌の可能性について、地理学内部で十分に議論されていないことを残念に思ってきた。また、研究成果の社会還元の分野において地理学が担ってきた役割として地理教育があるが、大学における地誌授業、高校地理の教科書執筆などの経験から、地誌を「書く」という実践に関する議論が不十分であることが地理教育に及ぼしてきた負の影響を痛感した。こうした研究と教育の両面における問題意識から本研究課題を提起することとなった。

３．研究の方法

(1)日本にとって中国は最も関心の高い地域の一つでありつづけてきた。近世における『唐土名勝圖會』『和漢三才圖會』に代表される、中国方志の影響を強く受けた日本固有の地誌的伝統の上に、近代になって欧米の中国研究・地理学に立脚した新しい地誌が導入され、さらに戦間期には『支那省別全誌』に代表される植民地主義的な背景を内包した現地経験に基づいた地誌が発行されてきた。また敗戦後、中国のフィールド調査ができない時期に地理学における地誌の低迷が重なったが、『新訂東アジア』(1991) など、地理学叢書の一環として、中国地誌を書く実践は細々とながら続いてきた。本研究課題は、日本における中国地誌が何を記載してきたのかについて、資料の収集とその綿密な読み込みを行い、地誌的伝統と社会的背景から考察を進め、それらの成果と課題を検討した。

(2)中国地誌の記載について検討する際に、単に過去の地誌の記述内容の羅列、整理にとどまるのであれば、その意義は必ずしも高いとは言えない。また、テキスト分析的手法により、その問題性・限界性を指摘することにとどまることも、同様に十分な意義は認めがたい。本研究課題を進めるにあたって、認識論としては構築主義に共感を示しつつも、存在論としてはその批判者である超越論的実在論について、Bhaskar や Sayer の所論を検討し、その地誌への適用可能性について考察を進めた。あわせて New Regional Geography のたどった軌跡など、英語圏地理学における地誌学をめぐる議論を再検討した。

(3)地誌を「書く」にあたって、その方法論そのものが本研究課題の重要な検討対象であり、研究期間を通じて考察してきたところでもある。研究代表者が進めてきた、フィールド調査に基づく生活空間論的な地理学研究は、本研究課題の地誌的記述の実践において、とくに資料収集の面において基本をなすものとなる。中国の地理的特色は「統一性の中の多様性」と概括されうるものであることから、複数の地点でフィールド調査を実施することが望ましいことはいうまでもない。しかし、研究期間が限定される以上、フィールドは厳選されなければならない。本研究課題では、対象を人文地理的かつ自然地理的観点から中国の半分をしめる中国本土（農業中国・漢族地域）を軸に設定し、その生態的条件と拡大する格差を考慮して、次の７つのフィールドを選定した。すなわち華中・先進地域として江蘇、東北・経済再生地域として吉林、華南・グローバル化地域として福建、華北・伝統地域として河南、華中・近代揺籃の地としての湖南、内陸・後発地域として四川、西南・文化接触地域としての雲貴の７つのフィールドである。

４．研究成果

(1)地誌がいかに書かれてきたのかをめぐっては、幕末・明治期から現在に至るまでの中国地誌を対象として、まず目録の作成による通覧を行った。さらに近代におけるその展開について、岸田吟香・矢津昌永・米倉二郎の著作である地誌を詳細に検討した。西洋の衝撃を正面から受けとめた地誌の需要と、近代日本で進む中国の他者化と文脈を共有する中国地誌の記述内容の変遷、アカデミー地理

学の形成と実証的な地誌の生成といった近代中国地誌の変遷に表れた特徴を明らかにした。

(2)地理学における地誌学の現在的状況について、1980年代に新しい地域地理学としてイギリスを中心として展開された地誌学の活性化を軸に展望した。その成果と課題について、実在論に着目しつつ、検討を進め、研究論文の公表を準備する段階に至っている。

(3)地誌を書くにあたって、本研究課題では、生活空間論的な視角から行われるフィールド調査に依拠することに重点がおかれている。以下のフィールド調査がそれぞれ２週間前後にわたって行われた。①2007年12月から2008年1月まで、南京において長江下流の産業化と都市化をめぐる景観観察と聞き取り調査および資料集を行った。あわせて香港において一国二制度下の中国化をめぐる生活空間の変化について調査を行った。②2008年9月には、吉林省とその省都である長春において、在来工業地域の再編と農村問題をめぐって調査研究を行い、あわせて大連において都市史と経済開発に関わる調査を行った。③2009年1月には、経済特区である厦門と福建省において、僑郷としての地域開発と出稼ぎ労働の様態について調査研究を行った。④2009年9月には、河南において、1990年代に行った登封農村と鄭州都市におけるフィールド調査の成果との比較の視点から、地域変化に関わる調査研究を行った。⑤2010年2月から3月には、湖南において、地域文化の史的展開について、とくに近代における人材の輩出と関わる調査研究を行った。⑥2010年9月には、四川省において、人口移動、文化伝統、そして歴史都市について調査研究を行った。⑦2011年2月から3月には、雲南省と貴州省において、少数民族地域の漢族との文化接触と都市構造について調査研究を行った。

(4)フィールド調査の成果とその際に収集した文献に基づいて、地誌を書く作業が進められてきた。地域における社会・経済・文化・政治の相互の関係について、対象とする地域の個別の文脈において明らかとすることを目指した分析・執筆が進められた。それらの成果は論文・学会発表として公表されたが、あわせて総体としての中国地誌に統合する作業の一環として、書籍（共著）の公刊が行われた。

(5) 本研究課題は研究レベルの深化のほかに、成果の社会への還元を重視してきた。とくに次回の指導要領改訂にかかわる高校地理教科書の執筆（分担）は、本研究課題から派生した活動として特筆される。また大学における講義、社会人・教師への講演など、種々のチャンネルを通して、本研究課題で得られた知見の社会への還元が進められた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計６件）
(1)小島泰雄「中国都市図の近代的転回」歴史地理学、査読有、52巻1号、2010年、105-113頁。
(2)小島泰雄「岸田吟香・矢津昌永・米倉二郎の中国地誌」神戸市外国語大学外国学研究所研究年報、査読無、46号、2009年、1-22頁。
(3)小島泰雄「生活空間の重層性から中国農村研究を考える」近きに在りて、査読有、55号、2009年、91-97頁。
(4)小島泰雄「成都地図の近代的展開」地域と環境、査読無、8･9号、2009年、55-64頁。
(5)小島泰雄「寧夏同心の貧困と回族の移動」神戸市外国語大学外国学研究所研究年報、査読無、45号、2008年、1-23頁。
(6)小島泰雄「領域化する郷－四川農村の近代－」神戸市外国語大学外国学研究所研究年報、査読無、44号、2007年、1-23頁。

〔学会発表〕（計３件）
(1)小島泰雄「岸田吟香・矢津昌永・米倉二郎の中国地誌」日本地理学会 2009年度秋季学術大会、2009年10月24日。
(2)小島泰雄「中国都市図の近代的展開」、歴史地理学会第52回大会、2009年9月20日。
(3)小島泰雄「移動から考える同心県の回族－寧夏回族自治区調査報告その６－」日本地理学会2007年度春季学術大会、2008年3月29日。

〔図書〕（計５件）
(1)石原潤（共著）、ナカニシヤ書店、『西北中国のいま－西部大開発下の陝西・寧夏・甘粛－』、2011年（刊行予定）、頁未定。
(2)上野和彦（共著）、朝倉書店、『世界地誌中国』、2011年（刊行予定）、136-147頁。
(3)石原潤（共著）、ナカニシヤ書店『変わり行く四川』、2010年、132-164頁。
(4)森時彦（共著）、京都大学人文科学研究所、『20 世紀中国の社会システム』、2009年、343-359頁。
(5)千田稔（共著）、古今書院、『アジアの時代の地理学－伝統と変革－』、2008年、111-122頁。

６．研究組織
(1)研究代表者
小島　泰雄（KOJIMA Yasuo）
神戸市外国語大学・外国学研究所・教授
研究者番号：８０２３４７６４